

事業所名

すまいるスペースそよ風の手紙

児童発達支援 支援プログラム

作成日

令和7年

3月

6日

法人（事業所）理念	利用者が、日常生活における基本動作及び知識技能を習得し、集団生活に適應することができるよう、また、生活能力の向上のために必要な訓練を行い、社会との交流を図ることができるよう、本人の意志・人格を尊重し、一人一人の置かれている環境に応じ、利用者本人の立場に立った適切かつ効果的な指導及び訓練を行うことを基本とする。 運営方針…関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図った適正かつきめの細かな支援を提供する。						
支援方針	個別指導では一人45分、ABAやPECSを用いて個々のニーズに合わせたセラピーを行っている。 集団活動では遊びを通してのコミュニケーション、集団でのルール プログラムではリトミック、体操、感覚統合運動、ダンス、サークルタイムなどを行っている。 また身辺自立にも力を入れ、入所後、排泄後、食事前の手洗い、トイレトレーニング、食事、食具の使い方、着替えなど自立に向けての支援をしている。						
営業時間	9時	30分から	17時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	生活に必要なスキルの支援として、手洗い、片付け、トイレトレーニング、食事 食具の使い方、着替えの支援を行っている。 自立しているところは手伝わず、介助の必要な部分だけを介助し、のちに少しずつ自分でできるように促す。 完全自立へと向けるプログラム タスクアナリシス (TA) の方法を用いて行う。					
	運動・感覚	大きなスクリーンを見ながら、曲に合わせて体を動かしたり、柔らかいクッション性の平均台でバランスを養う活動、バランスボードを利用した体幹を整える活動。 指先に力を入れる微細運動。個別指導ではお箸の持ち方、鉛筆の持ち方、セラピーパテを利用して指に力を入れるセラピー。ブロックやジオボードなどを使った空間認知機能向上のセラピー。感覚統合の教材を用いて、サーキットを作り、感覚統合運動などを行っている。					
	認知・行動	ABAセラピー（個別指導） 認知向上、動作模倣、物を使つての模倣、目を合わせる、人の話に耳を傾ける、身体の部位の理解、絵カードなどを使って物の名前を覚え、2語文、3語文へとつなげる受容と表出。文字、数字など。また年長になると学校を意識した就学プログラムを行う。安全に活動ができ、落ち着いて取り組めるよう環境設定を意識して支援している。					
	言語 コミュニケーション	個別指導では本人の名前、年齢、誕生日、家族などが伝えられ、自己紹介ができるように、言葉、PECSなどを用いて表出を促す。短期記憶から長期記憶の説明やお話ができるようにする。 また相手とのやり取りが続く支援をしている。 言語指導では出にくい音を一音一音を組み立てていく、言語指導、口形模倣、口を動かす力を付けるセラピーを行っている。 コミュニケーションを多く取り、人とやり取りが楽しいと思えることを目的としている。					
	人間関係 社会性	個別指導で培ったスキルを集団の中で活かせるように促し、お友達とのやり取りの中で集団のルールを身に着ける。 また自己紹介などみんなの前でもできるようなスキルが持てるようにする。 おもちゃの貸し借りの成立。お友達と協力し合うことで思いやりや優しさを育む。 お友達とのコミュニケーションが成立する場面を多く作る。 インクルージョンを意識し、他児童とのやり取りがスムーズになるように支援している。					
家族支援	児童発達管理責任者が保護者にこちらでの様子などを報告している。また悩みなく子育てができるようにサポートしている。月に1回以上のフィードバックを行う。			移行支援	幼稚園、保育園、訪問し見学、ケース会を開き連携を取っている。		
地域支援・地域連携	必要に応じ、関係機関である区役所、療育センター、幼稚園、保育園、保護者、他事業所等と連携を取り、情報を共有し、児童がより地域で過ごしやすく、また地域活動に参加できるよう、保護者に情報を提供している。			職員の質の向上	毎日のミーティングを行う。議事録を取り、スタッフ全員が会議の内容を周知する。子供の成長に合わせ支援の仕方などその都度共有する。		
主な行事等	春、夏、秋、冬、ハロウィン、クリスマス、正月 など季節を感じるみにイベントなどリトミックや集団プログラムの中で取り入れている。また年2回避難訓練を行っている。 動物公園などのイベントがあれば参加する。						